

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	知的障害児の心理・生理・病理						授業形態		講義	
科目コード	750136	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	石本 隆士								ICT活 用	○
授業概要	特別支援教育の中でも、特に知的障害児教育に関する専門性を養うため、知的障害の要因となる病理面や併存症・合併症と心理面及び生理面の特性並びにそれらの相互作用について学びます。 その際、特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターの実務経験をもとに、知的障害児の具体的な姿にも触れながら理解を深めていきます。									
関連する科目	履修前に「教育心理学」や「発達心理学」を履修することが、また、履修後は「知的障害児の心理と発達支援」を履修することが望ましい。									
授業の進め方 と方法	基本的に講義を中心とし、パワーポイントや動画など多様な手段を用いて展開します。確実な学びに向け、ICTを活用した即時的な知識・意見の共有と、段階的な振り返りを行います。また、学びをさらに深めるために、グループによるディスカッションやプレゼンテーションを行う経験を通して深化を図ります。									
授業計画 【第1回】	知的障害についてのガイダンス 知的障害の定義、発達や医療・福祉・教育制度の概要について学びます。									
授業計画 【第2回】	知的障害理解の生理的基盤 遺伝子と染色体、人体の発生、脳の構造と機能について学びます。									
授業計画 【第3回】	知的障害理解の病理的基盤 知的障害の危険因子、発生要因について学びます。									
授業計画 【第4回】	知的障害理解の心理的基盤① 知的機能とそのアセスメントについて学びます。									
授業計画 【第5回】	知的障害理解の心理的基盤② 適応機能とそのアセスメントについて学びます。									
授業計画 【第6回】	知的障害児の感覚と知覚 視覚・聴覚情報の認知、知的障害児における視覚・聴覚機能の問題について学びます。									
授業計画 【第7回】	知的障害児の運動機能 運動に関わる基礎的事項、運動発達、知的障害児の運動機能について学びます。									
授業計画 【第8回】	知的障害児の注意・記憶 注意と記憶のしくみ、知的障害児の注意と記憶の特性について学びます。									
授業計画 【第9回】	知的障害児の学習 学習に関する主な理論、知的障害児における読み書きや数概念の発達過程と支援について学びます。									
授業計画 【第10回】	知的障害児の言語・コミュニケーション 知的障害児の言語獲得や構音の発達、コミュニケーション行動について学びます。									

授業計画 【第11回】	知的障害児と健康問題 知的障害児の肥満や睡眠、食事と口腔機能、てんかんについて学びます。
授業計画 【第12回】	知的障害とその周辺領域 自閉スペクトラム症、LD、ADHD、発達性協調運動障害について学びます。
授業計画 【第13回】	知的障害と家族 知的障害児と家族との関係、家族支援の実践について学びます。
授業計画 【第14回】	知的障害と連携 知的障害の心理・生理・病理をふまえた医療・福祉・保育・教育機関や家庭との連携について学びます。
授業計画 【第15回】	知的障害児の指導・支援 自立活動の実践例をもとに指導・支援の実践を学びます。
授業の到達目標	知的発達の遅れ及び適応行動の困難さの要因となる知的障害の心理・生理・病理を理解し、一人一人に応じた指導・支援を行うため、以下の3点を到達目標として設定します。 1. 知的障害の心理・生理・病理的側面に関する基礎的な事項を理解している。 2. 知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知特性を把握する観察や検査について理解している。 3. 知的障害の状態・特性を踏まえた支援方法や家庭・医療機関との連携について理解している。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	授業の中で次の授業内容・課題などを提示するので、各自で確認したり、調べたりしておいてください。(1時間程度)
授業時間外学習【復習】	配布したプリント等を基に内容を整理したり、関連する資料・図書・文献等で更に深めたりしておいてください。(1時間程度)
課題に対する フィードバック	毎回の授業の最後に行う「ミニ確認テスト」等は、次時の授業時間に解説を行います。
評価方法・基準	通常の授業に臨む態度と授業の最後に行う「ミニ確認テスト」等の内容(30%)、及び最終試験(70%)で総合的に評価します。
テキスト	文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)』開隆堂(159円＋税) なお、必要に応じて資料を用意する。
参考書	梅谷忠勇著(2004)『図解知的障害児の認知と学習-特性理解と援助-』田研出版(2,000円＋税) 宇佐川浩著(2007)『障害児の発達臨床Ⅰ感覚と運動の高次化からみた子ども理解』学苑社(2,800円＋税) 小池敏英・北島善夫(2003)『知的障害の心理学-発達支援からの理解-』北大路書房(2,800円＋税)
備考	37年間、公立小学校に勤務(通常の学級の担任5年、通級指導教室担当14年、特別支援学級担任18年)。